

沖縄平和学習映像教材 第5編 沖縄の苦難

探究ワーク 1

なぜ、コザ騒動は一夜で終わったのだろうか？

指導案・生徒用ワークシート(25 分)

探究ワーク:なぜ、コザ騒動は一夜で終わったのだろうか？

1970年12月20日未明、コザでは米軍関係車両が焼かれる大規模な騒動が起きました。ところが、米側の記録によれば、午前6時40分までには街頭から人々はいなくなり、事態は収束しています。これほど大きな怒りが爆発したにもかかわらず、騒動はなぜ長期化しなかったのでしょうか？

1

史料から「怒りの理由」を探す

「前ページの史料(ビール宛メモ等)から」や「資料から」コザの人々が何に怒っていたのかを3つ以上抜き出してください。

例:米軍人の車による交通事故

考えてみよう:コザ騒動は、たった一件の交通事故だけが原因だったと言えるでしょうか。

2

「基地がなくなればよい」と考えていたのか

当時のコザには、米軍人を相手にする飲食店、バー、商店、サービス業などが多く存在していました。基地は、住民にとって騒音や事件・事故をもたらす存在である一方、仕事や収入を生み出す存在でもありました。

問い:「米軍に怒っている」と、「基地と関わりながら生活する」とは、同時に成り立つでしょうか。

3

仮説を立てる

なぜコザ騒動は、あれほど激しかったのに一夜で収束したのだろうか。

私たちの仮説:コザ騒動が一夜で収束したのは、__からだと考える。

4

現地での視点:「仮説を確かめる素材」を準備する

街を歩きながら、仮説を支持したり、反対したりするものを探そう。

注目する視点:

- ・ 基地と街の距離・位置関係
- ・ 基地に関係する店や施設
- ・ アメリカ文化の影響
- ・ 基地に対する反発や記憶
- ・ 基地によって生まれた仕事や文化
- ・ 地域の人の語り

5

整理:コザの人々と基地との関係を一言で表す

次の言葉から一つ選んでも、別の言葉を考えても構いません。

依存／反発／共存／矛盾／葛藤／利用／交流／支配

文章で表現:私は、当時のコザの人々と基地との関係を「__」と表す。なぜなら、__からである。



史料から怒りの背景を読み取り、基地と暮らしの関係を考える。

収束の理由を仮説として表し、現地で確かめる問いにつなげる。

探究ワーク 1:なぜ、コザ騒動は一夜で終わったのだろう？

学習指導案 中学生・高校生対象 25 分 A4 2 枚

1970 年 12 月 20 日のコザ騒動を扱う。米側の報告に記された出来事と、解説が示す生活・経済の視点を関連づけ、1～5の問いに取り組む。収束の理由は一つに決めず、根拠と未確認の点を示す。

1 本時の目標と準備

目標:①直接のきっかけと蓄積した不満を区別する。②怒りと生活上の関わりが併存する可能性を考える。③仮説と、それを支持・反証するために必要な資料を示す。

準備:今回のスライド3枚、ワークシート1枚、筆記用具。4人程度の班をつくる。資料全文は投影して参照できるようにする。ワークシート上部には日本語訳の関連箇所を抜粋して掲載。映像視聴や現地調査は 25 分に含めない。

2 本時の展開 25 分

時間	生徒の活動	教員の働きかけ・指導上の留意点	狙い・見取り
5 分	資料を読み、2段階で整理 第1段階に事実、第2段階に 背景や理由の候補を書く。	1分で中心の問いを確認。3分で資料を読み「事故」「判決」「化学兵器」「鎮静化」に線を引く。1分で事実と考えるのメモを分ける。 発問①「直接のきっかけは何ですか」 発問②「事故以前の不満はどこにありますか」 声かけ「書かれていることと、自分の推測を分けよう」	史料の記述を根拠にできるか。きっかけと背景を区別できるか。
12 分	1～5を各約2分で考え、各自が記入 残り2分で別の理由を探す。	各問で 30 秒考え、1分話し合い、30 秒で短く記入する。問4は調査計画とし、今ここで調査は行わない。最後の2分は問3の別の説明や反例を探す。ヒントは次頁の手順で必要なものを一つ示す。 発問①「怒りと仕事の必要は両立しますか」 発問②「催涙ガス以外に考えられる理由はありますか」 声かけ「全員の結論をそろえず、各自の理由を書こう」	5問に取り組み、仮説を根拠と結びつけられるか。別の説明も考えられるか。
5 分	解説と照合して加筆 友達と根拠を確認し、問3・5を見直す。	2分で解説の4項目を示す。2分でペアが「根拠はどこ？」と確認し、1分で各自が加筆。解説の経済面は考察の視点として扱い、住民全員の動機と断定しない。 発問①「解説から何を加えられますか」 発問②「史料だけでは分からない点は何ですか」 声かけ「仮説を残し、確かめたい点を書き足そう」	事実と解釈を区別して説明を修正できるか。収束を問題解決と同一視しないか。
3 分	現地で確かめる計画を整える 問4を具体化し、問5を一人が紹介する。	2分で問4に場所・資料・確認内容をそろえる。最後の1分で一例を共有。現地の今の様子だけから 1970 年の状況を断定しないよう伝える。 発問①「何を見れば仮説を確かめられますか」 発問②「仮説に合わない資料も探せますか」 声かけ「場所と、そこで確かめることを組にしよう」	現地での具体的な確認方法を持ち、仮説を見直す姿勢があるか。

指導上の留意点

米側の報告には作成者の立場がある。記述を住民全員の声と同一視しない。基地への怒りと生活上の関わりを二者択一にせず、政治的立場ではなく、根拠・理由・確かめ方を評価する。

到達のイメージ

「事故だけでなく、無罪判決や化学兵器撤去の遅れへの不満があった。鎮静化には警備部隊の対応があり、基地に関わる暮らしも背景として考えられる。ただし、住民の動機は追加の証言や記録で確かめたい」と、事実と仮説を分けて説明できる。

解説を活用した指導と1～5の問いへの支援

3 解説の4項目を授業にどう活かすか

長年の不満の噴出:問1で、事故を直接のきっかけ、判決への反発や化学兵器撤去への不満を背景として整理する。解説の「事件・事故の繰り返し」は、今回の報告だけでは全体を確かめられないため、別の記録で確認する課題として扱う。

基地経済への依存:問2で、基地を相手とする飲食店・商店・サービス業などを取り上げる。「困りごとへの怒り」と「収入や仕事の必要」を分けて考える。暮らしの関わりを、基地への全面的な賛成や住民全員の同じ感情に置き換えない。

運動の性格と現実的な選択:問3で、報告の「自然発生的」という評価と、解説の生活・経済の視点を比べる。事前の組織的計画が見えないことと、参加者に目的や思いがなかったことは同じではない。個々の動機は仮説として残す。

一時的な鎮静化:問3・5で、警備部隊の排除や催涙ガスの使用という記述を確認する。「街頭から人がいなくなった」ことから「怒りや問題がなくなった」とは言えない。物理的な鎮静化と、背景にある課題の解決を分けて説明する。

4 問いのヒントと解答の方向

1 史料から怒りの理由を3つ以上探す

事故・無罪判決・化学兵器撤去の遅れに関する箇所へ戻す。当時の沖縄では「何が起きていたか」に加え「なぜ不公平、不安、不信を感じたのか」を尋ねる。例:事故への怒り／無罪判決への不信／化学兵器撤去の遅れへの不満。3つの出来事を、同じ一件の事故と混同させない。

2 怒りと基地に関わる生活は両立するか

店を営む人や基地で働く人の立場を想像し、困ることと生活に必要なことを一つずつ挙げる。解答例:「事故には怒っていても、家族を養うため基地に関わる仕事を続けることはあり得る」。これは可能性の説明であり、全員に当てはめない。

3 一夜で収束した理由の仮説を立てる

「史料の記述 → 考えられる理由」の順につなぐ。例:「催涙ガスや警備部隊の対応によって行動が抑えられた可能性がある。生活への影響も考えられるが、追加資料が必要だ」。経済面だけ、怒りの発散だけなど、単独の理由に固定しない。

4 仮説を確かめる素材を準備する

「何を確かめたいか → ガイドさんや宮永さんから何を聞きたいか → どこで何を見るか → 何が分かれば仮説を見直すか」をセットにする。例:当時の店や仕事の記録・住民の証言で基地との生活上の関わりを調べ、異なる経験も探す。現在の街並みは当時の写真・地図と比べる。

5 関係を一言で表し、理由を説明する

依存・反発・共存・矛盾・葛藤・利用・交流・支配から選ぶか、自分がなぜその言葉を選んだのか、あるいは考えたのかを整理して考える。例:「葛藤。基地への怒りがある一方、生活上の関わりもあったと考えるから」。語の一致を求めず、その語を選んだ根拠と説明を見取る。

5 必要に応じてヒントを示す手順

まず「資料の言葉が分からない／理由を結べない／書き始められない」のどこで止まったか聞く。言葉で止まる時は該当箇所を示し、意味を短く説明する。理由で止まる時は上の問いの一つだけ示す。文章で止まる時は「～という記述から、～と考える」と書き出しを渡す。30秒ほど考える時間を取り、例示の丸写しではなく自分の根拠で書けたか確かめる。

6 学級に応じた進め方

プラン	進め方と時間配分 合計 25 分	特徴と支援のポイント
1 協働型	資料・整理5分 → 対話しながら問いを考える 12 分 → 解説・加筆5分 → 現地計画3分。	一人一つ根拠を示す。 現地計画:現地での質問や視点を考えさせる
2 併用型	資料・整理5分 → 個人で問いを考える 10 分 → 共有・別の理由2分 → 解説・加筆5分 → 現地計画3分。	初稿を残す。 現地計画:現地での質問や視点を考えさせる
3 自立型	資料・整理5分 → 個人で問いを考える 10 分 → 反例検討2分 → 解説との比較5分 → 現地計画3分。	必要に応じてヒントに戻る。 現地計画:現地での質問や視点を考えさせる

現地ではコザの街と基地の位置、店・文化・記憶を、展示・古い地図・写真・語りから確かめる。語り手の話せる範囲を尊重し、一人の経験を地域全体の代表としない。出典:今回の探究ワーク・資料・解説スライド。

探究ワーク 1:なぜ、コザ騒動は一夜で終わったのだろうか？

年 組 番 名前

日付

資料 コザ騒動についての概要報告 日本語訳より抜粋

1970 年 12 月 21 日 リチャード・ビール氏宛メモ「沖縄における騒乱」

Civil Disturbance on Okinawa: Memorandum for Mr. Beal 出典:沖縄県公文書館(提供スライド記載)

この騒動の直接のきっかけは、12 月 20 日日曜日の午前 1 時 10 分ごろに発生した交通事故であった。アメリカ人所有の自家用車が沖縄人の歩行者をはね、軽傷を負わせた。[中略]日曜日午前 6 時 40 分までには、街頭からデモ参加者はいなくなった。[中略]彼らは催涙ガス 8 本の使用によって阻止された。[中略]すべての報告は、この騒動が自然発生的なものであったことを示している。騒動の背景にある最大の要因は、その週に軍法会議で行われたある下士官の無罪判決であった。この下士官が所有する車両は、9 月に沖縄人女性を死亡させる事故を起こしていた。沖縄側の当局者によれば、住民は例外なく、この無罪判決を「正義を踏みにじるもの」と受け止めていた。[中略]

この抗議集団は、沖縄からの化学兵器撤去の遅れに対する不満も表明していた。[後略]

読む時の注意:米側の報告に書かれた内容です。住民全員の気持ちや、この資料だけで分かるわけではありません。

第 1 段階 史料に書かれた事実を整理する

出来事・時刻・対応などを短くメモしよう。

第 2 段階 背景や理由の候補を考える

不満・仕事や収入・警備部隊の対応から考えよう。まだ確かめていないことは仮説にしよう。

1 史料から「怒りの理由」を3つ以上抜き出そう。事故だけが原因と言えるだろうか。

ヒント:事故の記述に加え、判決と化学兵器の箇所を探そう。それぞれ何への怒り・不満かを考える。

2 「米軍に怒っている」ことと「基地と関わりながら生活する」ことは、両立するだろうか。

ヒント:当時は米軍人相手の店やサービス業もあった。店を営む人の「困ること」と「収入」を考えよう。

3 あれほど激しかったコザ騒動は、なぜ一夜で収束したのだろうか。仮説を立てよう。

ヒント:「～という記述から、～のためと考える」と書こう。警備部隊の対応や生活の事情を比べよう。

4 現地で仮説を確かめるために、何を見たり聞いたりするか。場所・素材・確認内容を書こう。

ヒント:基地と街の位置、店・仕事、文化、記憶、住民の語りに注目。仮説に合わない材料も探そう。

5 当時のコザの人々と基地との関係を一言で表し、その理由を書こう。

ヒント:依存／反発／共存／矛盾／葛藤／利用／交流／支配など。「私は～と表す。なぜなら～」と書こう。

25 分 最後に別の理由も探し、自分の考えに加筆しよう。仮説は現地の資料や証言で確かめ、見直そう。